

第10章 教育課程の編成について

1 学校の道德教育の重点目標

「小・中学校学習指導要領解説 総則編」(H29.7)には、次のように示されています。

校長の方針の明確化

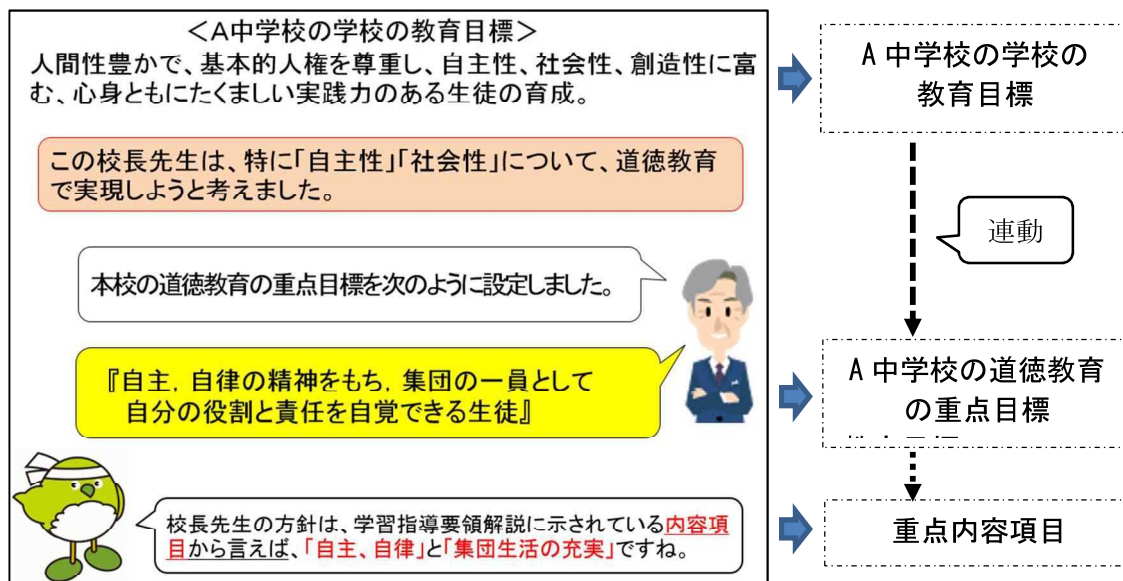
○学校の教育課程の管理者である校長は、その指導力を発揮し、学校の道德教育の基本的な方針を全教師に明確に示すことが必要である。

○校長は道德教育の改善・充実を視野におきながら、関係法規や社会的な要請、学校や地域社会の実情、児童の道德性に関わる実態、家庭や地域社会の期待などを踏まえ、学校の教育目標との関わりで、道德教育の基本的な方針等を明示しなければならない。



○道德教育の方針を全教師に明確に示す。
○学校の教育目標との関わりで、道德教育の目標を設定する。

これを、各校の**道德教育の重点目標**といいます。



具体例で考えてみます。

上図のA中学校の校長先生は、学校の教育目標にある「自主性」「社会性」に着目しました。生徒の「自主性」「社会性」を育成は、道德教育を中心に行おうと考えたのです。そこで、上図のような道德教育の重点目標を設定しました。

つまり、**道德教育の重点目標は、学校の教育目標から生まれてくるのです**。言い換えれば、A中学校の道德教育の充実が学校の教育目標の実現につながるのです。

そして、**道德教育の重点目標から、A中学校の重点内容項目が見えてくるのです**。

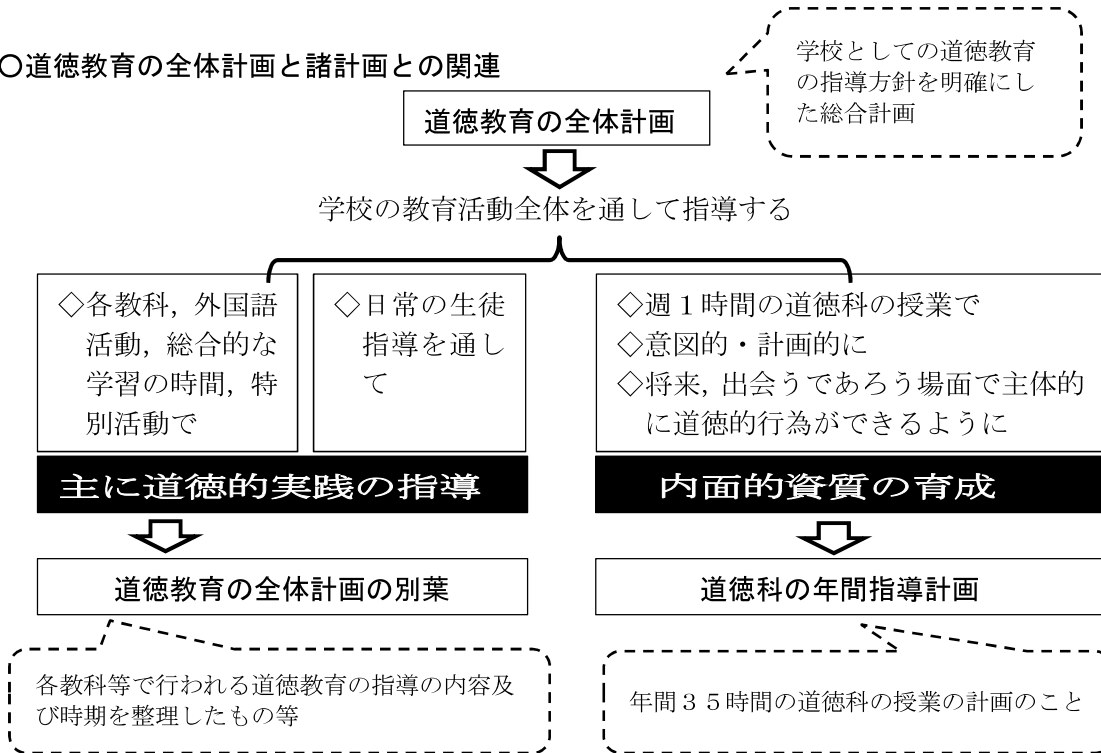
2 道徳教育の全体計画

○道徳教育の2つの指導

道徳教育には、各教科や特別活動等で行われる道徳的実践の指導と、道徳科で行われる内面的資質の育成を目指した指導があります。

この2つの指導を意識することが大切であり、そのために各学校では、児童生徒の実態を踏まえた全体計画及び諸計画を作成しなければなりません。

○道徳教育の全体計画と諸計画との関連



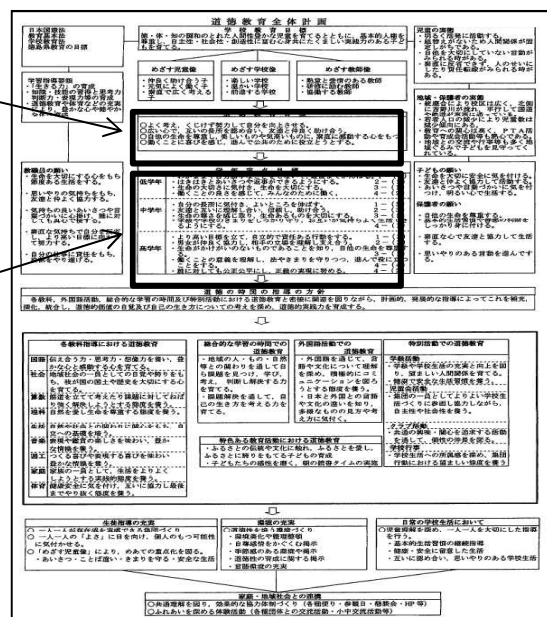
○道徳教育の全体計画

①道徳教育の重点目標の設定

- 校長は児童生徒の道徳性に関わる実態等を踏まえ、学校の道徳教育の方針を明示します。
- 学校の道徳教育の重点目標は全教職員で共通理解します。

②各学年の重点目標

- 校長が明示した道徳教育の重点目標に基づき、学年段階の重点目標を設定します。
- 各学年の重点目標は、道徳科の年間指導計画に反映させます。



道徳教育の全体計画のイメージ (例)

3 全体計画の別葉

○別葉とは

今回の改訂で、**道徳教育の全体計画に道徳授業以外の道徳教育の内容及び時期を示す必要があることが明示されました。**例えば以下のような内容です。

- ◇各教科等で行われる道徳教育の指導の内容及び時期を整理したもの。
- ◇道徳教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの。
- ◇道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるもの。

別葉とは、道徳授業以外の道徳教育の内容及び時期を、全体計画の中に書き表すことが難しいため、右のように、全体計画の一部として、一覧表にして示したものです。

全体計画の別葉のイメージ(例) ⇒

表の横の項目は、教科等の名称

学年	国語	算数	生活	音楽	図画工作	体育	特別活動
1-1		日常生活の中からの数感を生かす(10月)	自分自身の成長を振り返る(10月)	自分の意思に決断して動く(10月)		場外安全に気を付けて運動する	持ち物の整理整頓と本棚の片付け(10月)
1-2		乗法九九を身に付ける(4月)	自分で考え、ことば、ことばで伝える(10月)		好きな色を生かして調音するまで作り出す(10月)	目標をもち練習を続ける(10月)	日常生活や目標達成の振り返り(10月)
1-3							
1-4							
2-1		電算機に合わせたいさつをする(4月)	他者の人々に適切な言葉遣いで答える(10月)				あいさつや言葉遣いを確認する(10月)
2-2		グループで話し合い、意見をまとめる(10月)	他者の意見に敬意を払い行動する(10月)	他者の意見に敬意を払い行動する(10月)	他者の人の作品のよさを伝える(10月)	相手のことを考えて対話する(10月)	
2-3		作文を読んで感想を伝える(10月)	誰かを工夫し、友達と協力して楽しむ(10月)	友達と一緒に声を合わせて歌う(10月)	友人と活動しながら問題を解決する(10月)	友達と協力して長を伸ばす(10月)	友達と協力して楽しむ(10月)
2-4			季節の生活や行事を人々に紹介する(10月)				
2-5		科学的な本の内容を詳しく読む(10月)	動物の生態に感動し、自然の恵みを感謝する(10月)	身近な自然物の形や変化を調べる(10月)	身近な自然物の形や変化を調べる(10月)		食生活の中での食生活の振り返り(10月)
2-6				歌の調子やリズムを表現する(10月)			道徳の振り返り(10月)
2-7							道徳の振り返り(10月)
2-8							道徳の振り返り(10月)
2-9							道徳の振り返り(10月)
2-10							道徳の振り返り(10月)

表の縦の項目は、「内容項目」に関するキーワード

○別葉の作成手順

- ① 各学校の具体的な道徳教育の**重点目標**を設定します。
- ② 道徳教育の重点目標の**ポイント**を明確にします。
- ③ 道徳教育の重点目標のポイントに関わって、**重点内容項目**を明らかにします。
- ④ 重点内容項目に関わって、**道徳授業以外の指導の内容及び時期**を明確にします。
- ⑤ **重点内容項目以外**の内容項目も、④の作業を行います。

(例)

①学校長が設定した重点目標

例 『人間尊重の精神を生かし、相手の気持ちを考えて行動したり、社会規範を意識して行動したりする子どもの育成』

②ポイントを明確にする

例 校長先生の方針のポイントは、2つだ。
・相手の気持ちを考える
・社会規範を意識

③重点内容項目

例 道徳教育の内容で言えば、この2つだ。
・「親切、思いやり」
・「規則の尊重」

④重点内容項目に関わって

学年	国語	算数	生活	音楽	図画工作	体育	特別活動
1-1							
1-2							
1-3							
1-4							
2-1							
2-2							
2-3							
2-4							
2-5							
2-6							
2-7							
2-8							
2-9							
2-10							

思いやりにかかわる指導

規範意識にかかわる指導

⑤重点内容項目以外の内容項目も

学年	国語	算数	生活	音楽	図画工作	体育	特別活動
1-1							
1-2							
1-3							
1-4							
2-1							
2-2							
2-3							
2-4							
2-5							
2-6							
2-7							
2-8							
2-9							
2-10							

思いやりにかかわる指導

規範意識にかかわる指導

2つの重点内容項目に関わって、道徳科以外の教育活動の中で、どのような指導ができるのか検討する。

その他の内容項目においても、どのような指導ができるのか検討する。

※例えば、最初の1年は、④重点内容項目のみを、全教職員の共通理解の下で実践していく。そして3年計画で徐々に増やし、⑤に近づけていくという方法が考えられます。

4 道徳科の年間指導計画

道徳科（週 1 時間の道徳授業）の年間指導計画に、学校の重点目標を反映させていくことが大切です。

例えば、重点目標に関わる内容項目（重点内容項目）は、年間 1 時間ではなく、2～3 時間ほど、授業を行うことが考えられます。

道徳教育の内容項目数は、次のようになっています。

- ・ 小学校低学年・・・ 19 の内容項目（指導内容）
- ・ 小学校中学年・・・ 20 の内容項目（指導内容）
- ・ 小学校高学年・・・ 22 の内容項目（指導内容）
- ・ 中学校・・・ 22 の内容項目（指導内容）

例えば、1 時間に 1 つの内容項目を学習したとすると

- ・ $35 - 19 = 16$
- ・ $35 - 20 = 15$
- ・ $35 - 22 = 13$

低学年は 16、中学年は 15、高学年と中学校は 13 の余剰時間ができます。この余剰時間に、重点内容項目に関わる授業を行うようにします。

○他の教育活動との関連や季節的变化等を考慮して配列

- ・ 例えば、体育大会等は、児童生徒の目標に向かう態度や規則尊重の態度を指導する機会が多いと思われます。その場合、体育大会の直後に、育ちつつある心情や態度を、道徳科の授業で、更に深化させていくことが考えられます。
- ・ 例えば、いじめ防止を目的として、いじめ問題に関する教材を使って授業を行う場合は学年の早い時期に行うことが望まれます。問題行動が起きる前に位置付けるのです。道徳教育は先手の教育です。

○複数時間扱いについて

- ・ 重点目標に関わる内容項目については、2～3 時間で扱い、じっくり考え、議論させる等の工夫が考えられます。
- ・ 教材によっては、複数の道徳的価値が含まれているものがあります。そのような場合、同じ教材で、別々のねらいを設定してそれぞれ授業を行うことが考えられます。

○地域教材や「私たちの道徳」等の活用について

- ・ 例えば、使用している教科用図書に重点内容項目に関わる教材が不足している場合、教育委員会作成の教材や「私たちの道徳」に掲載されている教材を活用することが考えられます。
- ・ 道徳科は主たる教材として、教科用図書を使用しなければなりません。道徳教育の特性に鑑みれば、各地域に根ざした地域教材等の活用は重要です。